

わかば・あおぞら学級 生活単元学習指導案

| | | | | |
|-----|----------|------|------|-----|
| 児童 | わかば学級 | 男子4名 | 女子1名 | 計5名 |
| | あおぞら学級 | 男子1名 | 女子0名 | 計1名 |
| 場所 | 家庭科室 | | | |
| 指導者 | わかば学級担任 | **** | | |
| | あおぞら学級担任 | **** | | |

1 単元名 「こくっちは ともだち」～第2次：へっちょこくっちだんごをつくろう～

2 単元について

(1) 児童の実態

～省略～

(2) 単元のあらまし

題材設定のきっかけは、「なんで（二戸は）こくっちなのか？」という児童のつぶやきである。運動会等の行事をとおして岩手国体の公式キャラクター「わんこきょうだい」に触れる機会を得た折に、県内それぞれの地域の特徴に応じた設定であることを知らせた。自分たちの住んでいる二戸地方と雑穀とのかかわりを知る中で、郷土食を作って食べたいという願いが生まれたことから、雑穀を使っての「へっちょこだんごをつくろう」という単元を設定した。

本単元は、キャラクター「こくっち」を中心にすえて共通の課題意識をもたせ、「しらべよう」「つくろう」「ひろめよう」の活動をおして具体的な活動に主体的に取り組めるように構成した。その中で、社会や生活科、算数等の教科・領域と関連させながら、一人一人の実態に合った活動を設定し、習得できるようにして成就感をもたせたい。

特に「ひろめよう」では、単に作って食べる満足感にとどまらず「おいしいから他の人にも食べさせたい」「できたことを他の人にも知ってほしい」という思いを大切にして、学級の枠を越えて、かかわりを広め深めていくきっかけにしたいと考える。

(3) 指導に当たって

◎ 児童を高学年グループと低学年グループに分ける。

- ・兄っち、姉っち（あにっち、あねっち）グループ 4名
（わかば） *年1名 *年1名 *年1名 （あおぞら） *年1名
- ・弟っち（おとっち）グループ 3名
（わかば） *年名 *年1名 （あおぞら） *年1名

それぞれの実態に応じた活動を工夫するとともに、互いに交流しよさを認め合う場を設定する。

◎ 学習発表会での発表をめざす。

- ・体験したことを「輝け！カシオペアの子合同学習発表会」において、知らせたいことを大きな声ではきはきと発表できるようにする。

3 単元目標

- 《しらべよう》 雑穀の種類が分かり、「こくっち」と二戸地方との関連を理解することができる。
 《つくろう》 雑穀を用いたへっちょこだんご（へっちょこくっちだんご）を作ることができる。
 《ひろめよう》 活動したことを知らせることができる。

◎ 本単元（第2次）での実態と思考力・判断力・表現力におけるめざす姿

| | 学習や活動の様子 | 思考力 (自分を知り考える力) | 判断力 (自分で選び決める力) | 表現力 (自分の思いを伝える力) |
|---------|----------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| わかば・*年 | ～省略～ | ことばや計算の学習で学んだことを生かして取り組もうとする。 | 準備された選択肢の中から、自分の意思で選ぶ機会を多くもつ。 | まず身振りで伝え、短い言葉で声を出すようにする。 |
| わかば・*年 | ～省略～ | 丁寧に物を扱う意味や理由を理解して作業することができる。 | 理由を考えながら選んだり決めたりすることができる。 | 必要なことを適切な言葉で伝えることができる。 |
| わかば・*年 | ～省略～ | ものづくりや作業を進めるには、算数が役立つことを理解して取り組む。 | 全体のことや次のことを考えて、適切に選んだり決めたりする。 | 必要なことを適切な言葉で伝えることができる。 |
| わかば・*年 | ～省略～ | ものづくりや作業を進めるには、算数が役立つことを理解して取り組む。 | 次のことを予想して見通しをもって考え、適切な判断をする。 | 自分の言動で相手がどう思うかを考えて話したり行動したりする。 |
| わかば・*年 | ～省略～ | 国語や算数で学んだことを活かして、ものづくりに取り組むことができる。 | 全体のことや次のことを考えて、適切に選んだり決めたりする。 | 相手に応じて話し方や伝え方を考える。 |
| あおぞら・*年 | ～省略～ | かさはかる学習を活かして、上学年と一緒に楽しく作業することができる。 | 提示された選択肢の種類が分かり、自分の好きなことを見付けることができる。 | 分からないことや知りたいことを聞くことができる。 |

4 単元の構想と指導計画（第2次）

こくっちは ともだち

第1次 「こくっち」となかよしになろうよ 《しらべよう》
 ・なんで二戸が「こくっち」？ ・「ざっこく」ってなあに？ ・たねをまいてみようか

第2次 「へっちょこくっちだんご」つくってみようよ （7時間）

| 活動の中心（時間） | 活動のねらい | 活動の内容 |
|----------------------|----------------------------------|--|
| 《しらべよう》（1） | ・「へっちょこだんご」ってなあに？ いったべるの？ | ・パソコン、雑誌、パンフレット等の資料を調べて、へっちょこだんごが年末の郷土食であることを知る。 |
| 《しらべよう》（1） | ・どうやってつくるの？ | ・雑穀を用いただんご作りの材料、手順を調べる。 |
| 《つくろう》（2） | ・ざっこく入りの「へっちょこくっちだんご」をつくって、たべよう。 | ・わかば、あおぞらの人数分を作って試食する。 ・粉100グラムあたり、だんごが何こ作れるか、記録しておく。 |
| 《ひろめよう》（1） （本時） | ・みんなにもたべてほしいな。 じゅんぴをしよう。 | ・他の人にも食べてほしいという願いをもち、自分たちで準備を進める練習をしたり、30人分の粉の量を調べたりする。 |
| 《つくろう》（2） 《ひろめよう》 | ・作ってごちそうしよう | ・「へっちょこくっちだんご」を作り、先生方に食べていただく。 |

第3次 「こくっち」となかよくなったこと、しらせよう 《ひろめよう》
 ・わかったこと、できたことをしらせよう
 ・はっぴょうのれんしゅうをしよう

「輝け！カシオペアの子合同学習発表会」で 発表しよう

5 本時の指導

(1) 目標

- 「へっちょこくちだんご」を、先生方に食べていただくために、
- おとっちグループ・・・自分たちで道具を出し、粉の量をはかることができる。
- あにっち・あねっちグループ・・・30人分作るために、必要な粉の量を調べることができる。

(2) 自分のコミュニケーションツールを生かした言語活動

| 自立活動の区分・項目 | | |
|--|--|--|
| 3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整 4 環境の把握 (2) 感覚や認知の特性への対応 5 身体の動き (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行 6 コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーション | | |
| 児童 | 目 標 (評価◇) | 支援のねらい (手立て※) |
| あ お ぞ ら ・ * 年 | <おとっちグループ> ○安全、衛生に気を付けて、丁寧に道具を取り扱うことができる。身-(5) ○できるだけこぼさずに、粉をはかることができる。身-(5) | ・粉にふれ道具を操作することに落ち着いて対応できるように支援する。環-(2) |
| わ か ば ・ * 年 | ○100グラムの粉をはかり取ることができる。身-(5) ○気付いたこと、考えたことを話して伝えることができる。コ-(5) | ・自力で作業ができるように支援するとともに、1年生を補助する場面を大切にして積極性を促す。人-(3) |
| わ か ば ・ * 年 | <あにっち> ○線分図を見て、30人分の粉の量のめやすを考慮することができる。コ-(5) | ・見通しの把握がしやすい線分図を工夫して、課題解決への意欲と集中を喚起する。人-(3) |
| わ か ば ・ * 年 | <あにっち> ○表を見て、比の考えを用いてかけ算やわり算の式を考えたり、計算したりすることができる。コ-(5) | ・算出の方法の把握がしやすい表を工夫して、課題解決への意欲と集中を喚起する。コ-(5) ・自分で考え悩む時間をあまり長くとらないようにし、状況に応じて明確な指示を出す。人-(3) |
| わ か ば ・ * 年 | <あねっち> ○表を見て、比の考えを用いてかけ算やわり算の式を考えたり、計算したりすることができる。コ-(5) | ・算出の方法の把握がしやすい表を工夫して、課題解決への意欲と集中を喚起する。コ-(5) ・よい発想や気付きが見られた場合は、全体に広めるようにする。コ-(5) |

(3) 展開

◎評価

※支援

| | おとっちグループ | あにっち・あねっちグループ | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|---|----------------|------|--------|-------|-----|----------------|----------------|----------------|-------|-----|------|
| つかむ・みとおす 10分 | <p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">へっちょこくっちだんごを、先生方のために作ろう。</div> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">じぶんたちのぶんをつくったときは、先生が、どうぐやざいりょうをじゅんぴしました。きょうは、おとっちのみなさんがどうぐをじゅんぴして、こなをはかってくださいね。</div> <p>3 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚の表示を手がかりにして、道具を出せばよいことに気付く。 <p>※次時に作るときに、すばやく正しく道具を準備することが本時の目的であることを知らせる。</p> | <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分たちの分をつくったときのレシピがあります。それをもとにして、30人分を作るには、どのくらい粉を準備すればよいか、あにっち・あねっちのみなさんが考えてくださいね。</div> <p>3 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粉 100 グラムにつき、だんごを 20 こくらい作ったこと、一人に 5 この割り当てで 30 人作ることを確認する。 ・数直線図に数値を書き込む。 <p>※テープを操作して、だいたいの数値を予想させる。</p> | | | | | | | | | | | |
| | <p>たしかめる 25分</p> <p>4 課題解決に取り組む。</p> <p>(1) どうぐをじゅんぴしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に作ったときの様子を想起し、どんな道具を、なんのために使ったかを発表する。 <p>※確実に準備するために、道具の名前を書いておくとよいことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚の表示を手がかりに、道具を出す。 <p>(2) こなをはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はかりの使い方の注意点を知る。 ・一人一人が、上皿ばかりにボウルをのせて、100 グラムの粉をはかる。 ・あらかじめ、ボウルの重さがあるということに気付く。 ・はかり終えたら、互いに交換して 100 グラムであることを確認し、ほめ合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">◎評価 1 (身) ていねいに材料や器具を取り扱って作業している。(観察) ※落ち着いてゆっくりと作業できるように支援する。</div> | <p>4 課題解決に取り組む。</p> <p>(1) 表にして、粉の量を調べよう。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 80%;"> <thead> <tr> <th>人数分</th> <th>1 人分</th> <th>(C) 人分</th> <th>30 人分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粉の量</td> <td>(B) g</td> <td>100 g</td> <td>(D) g</td> </tr> <tr> <td>だんごの数</td> <td>5 こ</td> <td>20 こ</td> <td>(A) こ</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・考えやすい A から、数値を入れていく。 <p>① A : 1 人分 5 こ → 30 人分は $5 \times 30 = 150$</p> <p>② B : $5 \times \square = 20$, $20 \div 5 = 4$ → $100 \div 4 = 25$</p> <p>③ C : $20 \div 5 = 4$ これらの数値を使って、</p> <p>④ D : $25 \times 30 = 750$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">◎評価 1 (コ) 比の考え方を用いて、答えを導き出そうとしている。(学習シート, 発言) ※状況に応じて、式を教えたり、計算器を使わせたりする。</div> | 人数分 | 1 人分 | (C) 人分 | 30 人分 | 粉の量 | (B) g | 100 g | (D) g | だんごの数 | 5 こ | 20 こ |
| 人数分 | 1 人分 | (C) 人分 | 30 人分 | | | | | | | | | | |
| 粉の量 | (B) g | 100 g | (D) g | | | | | | | | | | |
| だんごの数 | 5 こ | 20 こ | (A) こ | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|---|--|
| ま と め る ・ ふ り か え る 10 分 | 5 おとっちグループで活動した成果を知らせる。 (3)じゅんびしたものをみせよう。 ・出した道具を、どのように使うかを説明しながら、あにっち、あねっちに見せる。 ・計量した粉を見せる。 「この粉は、100グラムあります。この粉を使ってください。」 ※うまく言えないときは、話型に沿って伝えさせる。 | 5 あにっち、あねっちが算出した、30人分の粉の量を知らせる。 (2)分かったことを知らせよう。 「30人分のだんごを作るには、750グラムの粉が必要です。」 |
| | ◎評価2 (コ) できたことを、話して伝えることができる。 (発言) | ◎評価2 (コ) できたことを、話して伝えることができる。 (発言) |
| | ・振り返りをし、本時に頑張ったこと、できたことを話す。 6 後片付けをする。 (4)どうぐをととのえよう。 ・出した道具は、だんごをつくる当日にスムーズに出し入れできるように、場所を確認しながら片付けをする。 ・計量が済んだ粉にはラップをかけて冷蔵庫にしまう。 | ※次時のだんご作りは、自分たちが主体的に進めていくという意識を高められるようにする。 ・振り返りをし、本時に頑張ったこと、できたことを話す。 ・上学年の児童が、おとっちグループの成果をほめる。 「みんな、じょうずに粉をはかってくれてありがとう。この調子で、30人分の粉を準備しようね。」 |
| 7 おわりのあいさつをする。 | 6 次時の見通しをもつ。 ・どのように作るかの見通しをもつ。 ※作るときには状況に応じて粉の量を加減してよいことを知らせる。 例)「作る日に、先生方が何人いるかを調べてから作ろう。」「残ったら私たちが食べるから、多めに作ってもいい。」「一度に30人分は大変だから、分けて作ろう。」など。 | |